

多々靈異兒ミタニノキとおぼせらるガアシテがあらず。御年二十四ナウシテ皇后オホヒメや
備ナシ王給ナシ小き。天皇ミタニ御叔父彦人アヒト大兄王オヨシキの御女ミツコ大中姬オホミツコ命
ヤ申ナシレを娶ナシく。麿阪王マロサカノミコト忍熊王ミシマノミコト姓氏錄カニヤシヒ小ハ。忍熊
別ナシ皇子ミツコやナシ二柱ツツルを生ナシ
わ給ナシレ來熊田造カミタヲシマツが祖シジマツ。太酒主タケヌシが女弟媛ミツコを娶ナシく。譽屋別命ヨクヤを
生ナシせ給ナシふ。記カタカタ小ナシ此ナシ王ミタニを皇ミタニ。此ナシハ間人ミタニ宿禰ミシマ。間人ミタニ宿禰ミシマ。間人ミタニ造ミタニ蘇宣部首スケヘノミツコ。
磯部ミツコ臣等ミツコ祖シジマツ小ナシセ里リ。又オシワカ忍雅ミシマツ命ミツコヤ申ナシレ御子ミツコもナシ一ミツコ生ナシ
レ是布勢ミツコ公ミツコの祖シジマツ。間人ミタニ以下ミタニ姓氏錄カニヤシヒ小ナシ因ナシリ。また齋宮記
等ミタニ伊和志真イハシミツコ内ミタニ親王ミツコ。仲哀ミツコ皇后ミツコとあ
さナシ。記傳カタカタ小ナシ根鳥ネジロ王ミツコの御子ミツコ。伊和島イハシマツコ。同ミタニ二月六日。天皇皇
王ミツコのミタニ。譯傳カタカタ小ナシ。論ミタニ。后ミタニ二柱ツツルヤナシ。越前國角鹿カスガ小行幸ミツコ。やナシ。又ナシ。小行宮
を建ナシく。大座ミシマセナシ。志水ミズシマをナシ。笥飯宮ミツコ。神名帳ミツコ。同國ミツコ敦賀ミツコ。
郡氣比ミツコ神社ミツコ。また角鹿カスガ

鹿ミツコ神社ミツコ。角鹿カスガ。崇神天皇ミタニ御代ミツコ。大加羅國ミツコの都ミツコ。想我
阿羅斯登アラスデン。とミツコ。一ミツコ歸化カニヤシヒ。住居ミツコ。地名ミツコ成ナシ。後ミタニ小
轉ミツコ。ツルガミツコ。和名抄カニヤシヒ。敷賀郡ミツコ都留ミツコ。我ミツコ此ナシ地ミツコの支ミツコ。武烈
天皇紀ミタニ。國造本紀ミタニ。小見え。万葉集ミツコ。角鹿津カスガツ。乘船ミツコ。笠金
村ミツコ。作歌。越海ミツコ。角鹿カスガの瀬。ゆ云云。後撰集ミツコ。相ミツコ。侍ミツコ。待ミツコ。
人のミツコ。あナシ。浦ミツコ。小越ミツコ。國ミツコへミツコ。かナシ。小詠人ミツコ。び。我
をミツコ。氣比カスガ社ミツコ。のミツコ。皇后ミツコの殿ミツコ。小委ミツコ。注ミツコ。今ミツコ。汝ミツコ
此時都ミツコ。虜坂ミツコ王ミツコ。忍熊王ミツコ等ミツコ。留ミツコ後ミツコ。是ミツコ月ミツコ淡路國ミツコの屯家
一ミツコ。遺置ミツコ。給ミツコ。由ミツコ。覺ミツコ。由ミツコ。一ミツコ。荒體ミツコ。事ミツコ。事ミツコ
を定ミツコ。給ミツコ。一ミツコ。時ミツコ。備ミツコ。爲ミツコ。一ミツコ。給ミツコ。御倉ミツコ。其ミツコを主ミツコ
官司ミツコ。指ミツコ。御ミツコ。上古ミツコ。諸國ミツコ。小數ミツコ。三月十五日。天
多ミツコ。安閑ミツコ。天皇紀ミタニ。見ミツコ。知ミツコ。后ミツコ。三月十五日。天
皇南國ミツコ。巡ミツコ。者ミツコ。留ミツコ。後ミツコ。是ミツコ月ミツコ。百寮ミツコ。小行宮ミツコ
留ミツコ。御親ミツコ。御大夫ミツコ。二ミツコ。三人ミツコ。數百ミツコ。官人ミツコ。等ミツコ。舉ミツコ
手ミツコ。紀ミツコ。伊國ミツコ。小幸ミツコ。德勒津宮ミツコ。御座ミツコ。古ミツコ。宮趾ミツコ。或ミツコ。高
郡江名村ミツコ

云やつ。信か宣や。説か。有記傳小熊襲や。強剛慄惲の称や。よを委く説とし。が集人を呼ひ。また武士の勇猛く敏捷の謂や。も思ふ。右の増吟かる遺種。乃天武天皇持統天皇紀及延喜式。大角集人。すりが同族の薩摩國阿多郡。阿多郡小住。阿多集人。すり。右ゆげ。國造本紀。續紀。姓氏錄。すり。薩摩集人。すり。瓦葉集人。集人の。すり。中少。大寶二年紀。少。薩摩國を。歌唱。更國。書。中少。大角。すり。右の唱更國の例。知る。他の例を引く。右の。漢書の地理志。樂浪海中。有倭人。分爲百餘國。以歲時來獻。漢者三十。皆稱王。魏志。倭人舊有百餘國。漢時有朝見者。今使譯所。通三十國。有漢武帝滅朝鮮。通於漢。後漢書。小。倭凡百餘國。自武帝滅朝鮮。使譯。通於漢。元封三年。我。開化天皇御世。五十年。小當。後漢の光武元年。我。無仁天皇。五十四年。我。馭我慨言。小返。論。如く。此の頃。天朝。漢國。御使。

小在く。神后ハ幡宮を祀。或い名草。此時。筑紫國郡。今新在家村の地。向。此。代。卷小。日一向。襲と。地。日。向國。南方。大隅。薩摩の國。上代の。施。称。者。其。本國。釋。神火。醉荷。命の。苗裔。隼人。祖。其。本國。釋。神皇正統紀。小説。如く。和名抄。小。大隅國。增。號。郡。地。小。右の二國を。併。吞。漢國。韓國等。私。小使。通。朝廷。小叛奉れ。度。一度。天子親征。小勞。給。後。日本武尊。平定。給。國。造。本紀。小。纏。向。日。代。朝。御。世。治。平。隼人。同。祖。初。小。纏。向。日。代。朝。伐。薩摩。隼人。鎮。之。近頃。薩摩國人の著。襲。山考。曾乃。字。則。本襲。也。續紀。令。諸國。定。郡。鄉。名。為。二字。時。添。之。韻。書。贈。族。猶。紀。伊。例。云。自。神古時。大隅。隼人。世。領。其。地。因。以。曾。乃。君。屬。其。姓。則。續。紀。天。平十三年。授。正六位上。曾。乃。君。多。理。志。佐。外。五。位。下。今。曾。於。郡。曾。於。鄉。尚。有。社。名。隼人。塚。在。於。鄉。之。止。土。神。社。西。數。百。步。而。祀。其。先。神。火。闌。降。於。同。社。庭。曰。大。隅。神。社。又。其。鄰。鄉。國。分。亦。有。隼人城。遺。塙。在。於。要。嶮。所。蓋。火。闌。降。以。來。神。闌。隼人。所。世。居。也。云。

賜を乞ひしや。更にかむもなき。夏からだ。右ふ倭人百餘國す。以て吾、筑紫國す。大縣小縣を指し。使を通じる者三十國す。吾ノ序はくをす。國造別稻置等の所為ふ。又す。同書小説と如きと。中少す。上の熊襲また下ふ出せり。伊荘縣主が噶矢。初ハ韓國小信を通し。次小漢小及び。右の文小朝鮮を滅べ。トキ云々。上に。に。更小論を待キ。此奴等も。私小使を外蕃小通せり。だふあるを。異賊や心を合せ。吾西國の邊陲と。鷗曉華を初。何くの書等。小開化天皇の御代。トキ三韓の皇國小寇せり。トキを載し。伊呂波宇類拟小仲哀天皇御奉。年小符合。決。熊襲。内應を。韓師を入也。漢人。ソニモ聲援を爲し。賊勢を助張。う。可拔者。蓋倚新羅爲聲援也。や論。信。然方説。尚。不可。桓武天皇御代。小韓。韓人の蝦夷人を誘き。以地。入。由。西洋人。據失。書。小。専同狀。小考合。然也。天神の御誨。諾。小新羅を征給。熊襲。自ら服。詔。小。案。小姓氏錄。

小先恭天皇御代。小薩摩國隼人反。額田部氏の祖。九月。同隼人反。討せ給ふ。夏。十月。下條小先是薩摩隼人を征せ。時太宰所部の神丸社。小。正威。小賴。荒賊を平け。幣帛を奉ら。と見え。元正天皇。養。四年。隼人反。大將軍。誅戮。給ふ。とある。政事要略。小引。古記。大隅日向の隼人反。とある。豊前守。宇奴。男人を將軍。ハ幡大御神を請奉。征伐。お給ふ。か後。御代。數々反奉。ト。なほ父祖の餘業の遺習。よ。小天皇。熊襲國を征す。立。や。御船。小め。海路を。宍門國小向い幸し。宍門弘仁私記。小。今。長門國。計。洞海。即日勅使。角鹿。立。出。一名。あ。下條。ト。ハ幡大御神を請奉。征伐。遣。皇后。小。や。其地。ト。宍門國小會ひ。賜。を。を詔ひ。や。セ。夏六月十日。天皇の御船。宍門國。立。立。立。

豊浦津小泊まへね。皇后ハ角鹿を發へ。路を津國小執

く下アシテまわせり。支構津國風土記の美奴賣松原條小今美奴賣アシテ神の御名アシテ其神アシテ能勢郡アシテ美奴賣山小坐せアシテがアシテ構津志アシテ三草山アシテ在神山村アシテ昔息長足比賣天皇の筑紫アシテ幸アシテ時アシテ諸神等アシテ川邊郡アシテ神前松原小集アシテ同志アシテ神前村アシテ有アシテ在社福アシテ求アシテ給アシテ時アシテ此神アシテ同アシテ來集アシテ神前村アシテ有アシテ吾も護アシテ奉アシテ宣アシテ諭宣アシテ吾住アシテ山アシテ須義アシテ木アシテ皆美材アシテ伐採アシテ船アシテ造アシテ給アシテ則此船アシテ乗アシテ行幸アシテ幸福アシテ宣アシテ天皇アシテ乃神教アシテ船アシテ造アシテ給アシテ此神船アシテ乘アシテ遂小新羅アシテ征アシテ給アシテ矣

正鑑倉實記アシテ神功皇后の行宮アシテ兵庫アシテ三韓渡海アシテ兵糧兵具アシテ百艘アシテ積入アシテ難波アシテ埼アシテ浮石アシテ難風アシテ厭アシテ神明アシテ祈アシテ諸龍アシテ祭アシテ給アシテ古說アシテ大アシテかくアシテ播磨アシテ國アシテ遷幸アシテ播磨アシテ國アシテ風土記アシテ小息長帶日女命アシテ新羅國アシテ平アシテ思アシテ下アシテ坐アシテころ時アシテ小諸神等アシテ小禱アシテ白賜アシテ爾時國堅アシテ大神の御子アシテ尔保都比賣命アシテ埴山姫命アシテ新具蘿姫命アシテ白乙野アシテ山アシテ天野アシテ社アシテ小鎮アシテ國造アシテ石阪比賣命アシテ小託アシテ教アシテ後段アシテ待アシテ國造アシテ石阪比賣命アシテ賀益國アシテ苦尻寶アシテ白金新羅アシテ小舟アシテ丹浪アシテ平伏アシテ賀アシテ良水アシテ八尋杵根底附アシテ國越賣アシテ眉引國アシテ玉アシテ賀アシテ益國アシテ若尻寶アシテ白金新羅アシテ小舟アシテ丹浪アシテ平伏アシテ賀アシテ也アシテ敵アシテ賀アシテ見ゆアシテ神諾アシテ誤字アシテ聞アシテ解難アシテ矣アシテ也アシテの云云アシテハ次小云

ふるやく大くふりまへ白ふからる枕詞新羅ハ出雲風土記
 小林金志羅紀の三持サムライある小隨スミ訓ひなし万葉集マニ
 くぶれまもろきんカクニいまほ云云うふけやく新羅のこや
 を宣アキラメたるやく韓人のあたちひ奉きとを倍ねら
 し。うち神等ハ外国の夷と雖ども天つ
 水影小林に如く能御覽せをも全々ミツミツ同記印南郡の下小
 一說を舉アキラメ所以號印南者宍門豐浦宮御宇天皇與皇后俱
 欲平筑紫久麻曾國下行シテ時御舟宿於印南浦此時滄海甚
 平風波和靜故曰入此小脫文あ多解カタカナ悉く誤脱有
 繢紀小同國賀古郡印南野万葉集マニ稻見野不欲見野カタカナ
 書き和名抄カタカナ印南郡あ全鎌倉実記小播磨高砂浦少
 舟裝カタカナ住吉大神現給カタカナ兵船を加カタカナ三韓小渡カタカナ給カタカナ
 ゆあると本文や考カタカナ合カタカナか実小太の國ト全カタカナ御舟小
 ハ御カタカナ大カタカナまた飮磨郡因達里下小称因達者息長帶比賣命欲
 之多也カタカナ時御船前伴太代之神在此處故因神名以爲
 平韓國度坐之時御船前伴太代之神在此處故因神名以爲

里名ト伴ハ伊誤カタカナ和名抄小同郡迎達伊多知カタカナ見え
 神名帳カタカナ射楯兵主神社二座カタカナ即此御社ゆく度
 會氏カタカナ考証小兵主神申カタカナ必須佑之男大神小坐カタカナ注
 き由の証七カタカナ右の社カタカナ今廣峯社カタカナ注カタカナ
 之カタカナ祇園社の本つ宮カタカナが上つ代カタカナ小鎮坐カタカナ
 斯カタカナ御時カタカナ小大后的御船を護カタカナ西國カタカナ送奉カタカナ
 紿カタカナ勿論カタカナ且後小韓國を征カタカナ小轉せまた揖保郡言
 之カタカナ時カタカナ挂カタカナ傳カタカナ也カタカナ聞カタカナたカタカナ御船
 舉阜ハ大帶日賣命の行幸カタカナ時此阜カタカナ坐カタカナ軍中小教カタカナ
 令カタカナ敕カタカナ此御軍カタカナ懇懃カタカナ言あけカタカナせカタカナ宣カタカナ故カタカナ
 此地を名カタカナ言舉カタカナ前カタカナ言舉カタカナ神典小興言カタカナ
 あげせわ國カタカナ言カタカナ言カタカナ揚カタカナ機密カタカナ貴カタカナ故カタカナ一舉カタカナ逆
 誠給カタカナ謂カタカナ兵カタカナ密カタカナ貴カタカナ此カタカナ此カタカナ
 賊カタカナ平カタカナ佔カタカナ神謀カタカナ聞カタカナ此カタカナ又曰宇須伎
 古カタカナ軍カタカナ令カタカナ有カタカナ知カタカナれカタカナ又曰宇須伎
 津右所以名宇須伎者大帶日賣命將平韓國度行シテ時御船

宿於宇伎頭川之泊自此泊度行於伊都之時忽遭逆風不得
進行而從船越々御船船猶亦不得進乃追發百姓令引御船
於是有一女人爲資上已之負而墜於江故號宇須伎新辭伊
徒船越々徒陸引越の誤々垂仁天皇記欽明天皇紀新
やみ見立如く陸地を御船を引せり宇須
伎也於須志同語少々女子の物を江水投棄た
アリとれまき更とく号初たるふやあむまた宇
頭川をかくり所以ハ宇須伎津の西方水之淵ある
故宇頭川サリ。やうく大帶白賣命御船の泊居地たり。
宇頭ハ万葉集云天平八年遣新羅使の中す。田辺秋庭や
ソム人の大島鳴門を過一時の歌云水や出の名小村
ナ門の宇頭之保爾やあり。盤渦潮やシニ義ナリ。古
柿本集云河のサリ。小うらまく見さ。玉もから。ちり乱毛
る。河の舟。古今六帖小たまき瀬の。うらまきあやふ。留
むれぞ云。類聚名義抄。涸漫廻水。ウツマク。状さ。ウツ
マク。ウツサリ。見え。文選小盤蓋。萍子。齊字をウツマク。クヤ訓
孔子家語。あん。園流。書た。されば絞水も盤渦く淵の事
や知り。右の大島。鳴門ハ今も大畠。迫門。周防。又伊都
国。小在。甚。まく海。舟人の恐ろ。所。又伊都
村。伊都。名づけ。故。御船の水手等の。此所小
到。見。ソリ。其地を號。伊都。万葉集云
見。も。來。我。多。詞。が。大。また
伴。家持。卿。山上。憶良。朝臣。歌。多く。伊都。書。た。故。
浦上。里。御津。息長。帶日賣命。御船の宿。泊。故。
號。御津。又讚容郡。中川里を。名づけた。所以
ハ苦編首等。遠祖。大中子。人。息長。帶日賣命。韓國
小行幸。時。御船淡路。石屋。宿。神名帳。淡路
石屋。神社。見え。六角堂。縁起。續古事談。淡路の巖屋の
海。行囊抄。岩屋村。れの。島の西岸。岩。小

宿於宇伎頭川之泊自此泊度行於伊都之時忽遭逆風不得
進行而從船越々御船船猶亦不得進乃追發百姓令引御船
於是有一女人爲資上已之負而墜於江故號宇須伎新辭伊
徒船越々徒陸引越の誤々垂仁天皇記欽明天皇紀新
やみ見立如く陸地を御船を引せり宇須
伎也於須志同語少々女子の物を江水投棄た
アリとれまき更とく号初たるふやあむまた宇
頭川をかくり所以ハ宇須伎津の西方水之淵ある
故宇頭川サリ。やうく大帶白賣命御船の泊居地たり。
宇頭ハ万葉集云天平八年遣新羅使の中す。田辺秋庭や
ソム人の大島鳴門を過一時の歌云水や出の名小村
ナ門の宇頭之保爾やあり。盤渦潮やシニ義ナリ。古
柿本集云河のサリ。小うらまく見さ。玉もから。ちり乱毛
る。河の舟。古今六帖小たまき瀬の。うらまきあやふ。留
むれぞ云。類聚名義抄。涸漫廻水。ウツマク。状さ。ウツ
マク。ウツサリ。見え。文選小盤蓋。萍子。齊字をウツマク。クヤ訓
孔子家語。あん。園流。書た。されば絞水も盤渦く淵の事
や知り。右の大島。鳴門ハ今も大畠。迫門。周防。又伊都
国。小在。甚。まく海。舟人の恐ろ。所。又伊都
村。伊都。名づけ。故。御船の水手等の。此所小
到。見。ソリ。其地を號。伊都。万葉集云
見。も。來。我。多。詞。が。大。また
伴。家持。卿。山上。憶良。朝臣。歌。多く。伊都。書。た。故。
浦上。里。御津。息長。帶日賣命。御船の宿。泊。故。
號。御津。又讚容郡。中川里を。名づけた。所以
ハ苦編首等。遠祖。大中子。人。息長。帶日賣命。韓國
小行幸。時。御船淡路。石屋。宿。神名帳。淡路
石屋。神社。見え。六角堂。縁起。續古事談。淡路の巖屋の
海。行囊抄。岩屋村。れの。島の西岸。岩。小

鍋釜の形自然トモ。その時雨風大小起スル。御伴トモ百姓ヤマ悉く濡スルたるれど大中子トマ苦トマ屋ヤを作スルから。天皇視ミラる。此爲國富タマ勅スル。即大中子トマ苦トマ編トマ首トマ姓トマを賜スル。居リるが仍此處小居リたる故。仲川里トマ之トマ。和名トマ同郡中川郷兵部式トマ。中川驛見ム。大中子トマ。此時御軍トマ。小徒トマ。西國下トマ。後トマ卦トマ地トマ。此里トマ小賜トマ。子孫トマ世トマ住リ。中聞スル。故トマ其子孫トマ代トマ遠トマ祖トマの名トマ地トマ。小貢トマ。皇后トマ申スル。例トマあれ。尚トマ此記トマ。上トマふ舉スル。賀トマ古トマ郡トマの説トマ。如トマ仲哀天皇トマ何所トマ。早トマ會スル。二柱トマ并スル坐スル。下トマ幸スル。傳スル。思合スル。豫トマ風土記トマ。大神老翁トマ現スル。皇后の御船トマ備前國の海上トマ過給スル。時トマ大牛トマ牛トマの如き物出スル。御船トマ覆スル。住吉大神老翁トマ現スル。其角トマ

を取スル投倒スル給スル。其所トマやハ牛轉トマ蹄トマ。後トマ小訛トマ牛窓トマ。あのうち譽田社縁起トマ愚童訓トマ嚴島諸記トマ。之トマ伴トマ信友トマの説トマ如トマ。備前風土記トマの文トマ。覺ゆ。此を妖妄トマ。信スル人トマ。又スル也トマ。後トマ世トマ。駿河後風土記トマ。和銅元年椎田池トマ數日震動スル。其池中トマ黑牛トマ一顆玉トマ貢スル。出スルと載スル。今昔物語集トマ。但馬國養父郡トマ山寺トマ牛鬼トマ。一僧トマ喰スル。更見ム。東鑑トマ。建長三年三月六日武藏國淺草寺トマ忽小牛トマの如き物出スル。走スル。寺僧五十人許トマ食堂トマ小集スル。が件トマの怪物トマ。見スル。廿四人トマ立スル。小病トマ。七人トマ即坐スル。或スル。水難トマの音トマ。波トマ。あれ。誰トマ。御食トマ聞スル。時海鯨魚トマ多く御船トマ傍トマ來集スル。到坐スル。御食トマ聞スル。時海鯨魚トマ多く御船トマ傍トマ來集スル。

皇后御酒を以て、されふ灑賜ひ。鯛魚やぐく酔く波
上小浮ウカひ出ハシね時小海人アマ也。其魚を多く獲エテ此ヒ聖皇の
吾小賜をる魚アマをアマい。甚く歡アマひあら里アマかくアマ此ヒ後
其處の鯛魚アマをアマ六月ミナツ小ちり頃アギト傾浮アマす。醉アマう若
小安藝人アマニ唐崎カラサキ氏ハシ曰ハシ今、豊田郡タチツ味瀬ミセ有アリ此ヒ事ハシ初夏傾浮藏海者
數月ハシ称ハシ曰ハシ浮鯛アマ有アリ官制不アリ妾繩アマ之アマ。貝原好古カイハラホコ八幡本紀
小溥田タチツ郡ハシ溥田タチツの邊野路アマの冲アマ小方六十七丈アマ程アマの所アマ毎年三
月魚多く浮アマふ由アマ。詞花集アマ小花を惜む心アマをアマめ。大藏
卿アマ國房アマニ春アマくれアマ味アマの海アマ一方小浮アマくすアマ魚の名アマ
惜アマ。此ヒ真アマを詠アマ是アマた。入り江昌喜カミヒ久保
の多アマみ小右歌アマを引アマ。溥田門タチツモンハ和名抄アマ同アマ国沼田郡沼
田タチツ鄉アマニ安直アマニ鄉アマニ安知アマニ加アマニある安直アマニ難波アマニ明石アマニ等アマ等アマ
ふ類アマ。ふちうた中詠アマ。やや。能地アマニ小鯛アマの浮アマふ
中アマ今アマ三月三アマ日前後アマ中アマ詠アマ。やや。能地アマニ小鯛アマの浮アマふ
中アマ。今アマ三月三アマ日前後アマ中アマ詠アマ。實アマ然アマ說アマ。古アマ

ハ六月小浮アマた。小後世小春アマ夏アマ傾浮アマく事アマ。事アマをアマ。
う。好古アマニも言アマ。如アマ古今曆年アマの差アマを生アマ。小因アマニ更
少アマ。新撰アマニ六帖アマ小知家アマニ三位アマ。又五月アマ。君アマニ。計アマ。
逢アマ。浮アマく。魚アマ。今アマも。あ。徳アマニ小皇典アマニ。
因アマニ詠アマ。是アマと漢アマニ。是アマと。信友アマニ。溥田タチツ。若狭アマニ。國三
方アマの海アマ。今アマも。ノタノトアマ。所アマ。六月小至アマ。毎
小鯛魚漂アマ。蕩アマふ。漁父アマニ。是アマと漢アマニ。是アマと。小鯛アマ。
右アマの知家卿アマニの歌アマを引アマ。証アマ。匡房アマニ卿アマニの歌アマ。安藝國アマニの
貞アマニ。彼アマニ此アマ中異アマ。皇后アマニの御船アマニ。北一海アマニ小浮アマ。
周防アマニ國アマニ小幸アマニ。状アマ。小論アマ。上アマ小引アマ古書アマ。小津
國及播磨アマニ備アマニ前等アマニの國アマニを過アマ。傳アマ。多アマ。信アマニ。生
た講坡アマニ國アマニ。綾松山アマニ近アマ海アマ。弥生アマニの湧アマニ鯛魚アマの傾浮アマ。
御縁アマニ。所アマ。非アマ。猶アマニ尋アマニ。此時アマニ伊豫國アマニ。
行幸アマニ。思アマ。由アマニ。之アマニ伊豫風土記アマニ湯泉アマニ。
郡アマニの條アマニ。天皇等アマニの湯アマニ行幸アマニ。亦アマニ五度アマニ。景行アマニ。
天皇よりアマニ以來アマニの行幸アマニを記アマ。中小アマニ。以アマニ帶中アマニ日子アマニ天皇與大アマニ

后息長帶姫命二軀爲一度也。やあ。ゆく知られた。

是謂

道後温泉なり。風土記小委く説る如く。神代の時少彦名大神の珠あり。故ありて出給る。靈泉をれど。御船一路の行年小者皇祖天皇の幸。地をれば。此時御船の路の行年小者。小幸。後小天智天皇の皇子坐。時齊明天皇を奉。韓国を征せ給ひ。筑紫小下。せろ時。此地小幸せ。あ。思合に至。ゆく。此傳ハ天皇皇后相與小幸。傳。と。上小舉。播磨風土記の印南仲川里條。考合。万葉集小橋の鳴居。河遠み。曝。吾下衣。仙覺。右の外小越智郡温泉郡立花。橋島。知られね。文德天皇實錄小伊豫國神野郡橋重見え。和名息長足日女命御歌也。此記ハ今全書闕。委き更ハ。右郡の内。今ハ。一吾父道正の同國喜多郡。必右郡の内。今ハ。大后御往還。時伊豫小幸せ。證。今ハ。一吾父道正の同國喜多郡。櫛生村。地の浦小物せ。小。松。皇后の御船を繋。給。傳。怪き巖石の。親見た。語。此を記す。思。出。小書付。小書付。是謂

秋七月五日小皇后

の御船豐浦津小泊。是日皇后海中より如意珠を如意珠得給ひ。下段小引古説小皇后の御妹淀姫命を海中淀姫命。小遣。干珠満珠を海神小借給。云々。若宮此時の立せ給ひ。所。其東の海中八十餘里あり。而離く。島二つ對立。古の干珠満珠。今ハ松。沖中を通る程。満千石。申り。宗祇。筑紫道誦。冲中を通る程。満千石。や。二の島を見。漢國の人。慕ひ。昔あがれ。見え。今も輿津平津。二島ある。干満二珠を藏ら。故。みら干の島。傳。通証。如意。神祠在泉州州堺南莊。祭神彦火火出見尊。住吉伯記曰。尊入海神宮。得潮満珠。潮潤珠。而後万事如意。故號如意明神。俗謬称子卯神。或称子亥神。此本住吉境地也。親長記。所謂參詣。子亥神是也。見汝土佐風土記。小吾川郡五島。或說曰。神功皇后。巡國之時御船泊之。皇后下島休息。磯際得一白石。團如雞卵。皇后安于御堂光明。四出。皇后大喜。詔左。右曰。是海神所賜。白真珠也。故鳥島。名。哀天皇の紀。國より發。彼地巡。幸。白珠を得給

ひーと此と彼も能似た。皇后も混傳たり。やくもあ
うじき和訓葉小云く此玉摸州廣田社かゆ全や。諸社事小
見え。蕉堅稿小西宮の劍珠ハ。九月。宍門小宮造アリ。わ
ま。是を宍門、豊浦宮ヤソ。神名帳小同國豊浦郡忌官神
社永萬記小二官ヤ。此宮址ナリヤ。道行ナリ。長門、國府カニかう全や。北濱ヤ。東南
ふちきく。家居あり。此ノ里一ち過ぎ。神功皇后ノ宮の御社
の前ナ出ナリ。又云。此御社ハ。宍門、豊浦の都の大内ノ跡小
く侍る。や。筑紫道記小仲哀天皇の皇居ハ。豊浦ヤ。ふ
ケラベ。垂跡の御神ハ。第一神功皇后。仲哀天皇。應神天皇。
仁德天皇。以上四座ナリ。三代實錄小貞觀十五年十一月
十五日。授長門國從五位下。忌官神從五位上。ヤ見え。好古云。
古ハ大小の神事。年中三百五十二度あり。一年中行事小
見え。花園天皇。延慶二年。造營の時。北條の下知状。光明天皇。
暦應五年の造営小足利尊氏の文書等。大官司家小傳た。正
四年亥秦始皇グ十一世の孫。功滿王ヤソ。者歸化入朝।
3. 珍寶蠶種等カニコノタネトモを貢る。此ハ三代実錄ある。時原宿祐春風カニコノタネトモ
上表也。廣隆寺縁起小因アリ。姓氏錄

ふ。天皇ハ一年來朝。太秦公宿祐。○八年。己卯春正月四
日。天皇豐浦の宮を發。筑紫國を指。幸坐。あの時
岡縣生グ祖熊鰐ヤソ。人天皇の幸ナリ。聞。五百枝賢
木を根ナリ。ふあ。取。其上枝小白銅鏡を取掛け。中枝小
十握劍を掛け。下枝ナリ。八尺瓊を掛け。あれと九尋船の舳
トツカ。ツルサ。ナシナ立。周芳國沙廢の浦。參來迎奉。魚鹽の地を獻
卫。岡ハ。和名抄小筑前國遠賀郡同國風土記塙舸縣也。有
地ナリ。五百枝賢木小三種物を著。ナリ。下條ふ。出
神代小天國也。天照大御神在。窟戸ナリ。祈出奉ゆ。故
実。小時。總赤心を頭。誠歎の至。を白。表物ナリ。故
貢献也。古禮小。沙廢ハ。和名抄小佐波郡佐波
鄉新猿樂記小。周防鯖ナリ。或物小。鯖魚ハ。此地の名產也
石故小。名を負。因奏。因奏。宍門ナリ。向津野大濟ま
リ。ナリ。ハ真ナリ。